

【No.770】2020 年度 がん外来治療支援看護師養成研修(オンライン)

募集要項

1. 目的： 外来でがん患者に携わる看護師が、必要な知識を習得し、がん患者の在宅療養生活を支える力を養う。
2. 目標： ①外来通院、在宅療養を行っているがん患者の特徴を理解する。
②高齢がん患者の特徴や、在宅で暮らすための社会資源、制度について知る。
3. 期間： 2020年11月7日(土)、12月5日(土)2日間
4. 受講場所： 両日とも、インターネットに安定して接続できる環境で受講
5. 受講対象： 外来でがん治療に携わる看護師でクリニカルラダー段階Ⅱ～Ⅳ相当の人
※看護師のクリニカルラダーの段階設定参照
6. 研修内容： 別紙 プログラム参照
7. 受講料： 無料
8. 定員： 25名
9. 申込期間： 9月1日(火)～9月7日(月)➡再募集期間 ~10月10日(土)
10. 申込方法： 追加募集の為、紙面(継続教育計画冊子、HP掲載の研修会申込書)のみでの申込です。
紙でお申し込みの方は、記入した申込用紙1枚+コピー1枚(計2枚)と
自施設の住所・施設名・担当者名を記入した返信用封筒(82円切手を貼付したものを同封して下さい)。
11. 修了証： 全日程を受講したものに「修了証」を発行する。

プログラム 令和2年度 がん外来治療支援看護師養成研修（オンライン）

令和2年11月7日（土）・12月5日（土）

1日目 令和2年11月7日（土）10:00～16:00					
	内 容	時 間	形式	講 師	
総 論 編	開 講	10:00～10:10	挨拶	公益社団法人京都府看護協会 常任理事 辻村 美春	
	録 画 配 信	【公開講座】 1. がん医療の動向 治療の変遷、治療の場、診療報酬等の動向について 2. がん治療の実際 がんの経過、臓器別症状・画像の変化 診断治療の実際	10:10～11:40	講義	三菱京都病院 院長補佐兼 腫瘍内科部長兼 緩和ケア内科部長 吉岡 亮
		オンライン研修の受講にあたって操作確認説明	12:40～12:50		事務局
	ラ イ ブ 配 信	3 Introduction 研修目的、目標、学習内容の確認	12:50～13:20		京都第二赤十字病院 がん看護専門看護師 西谷 葉子
	ラ イ ブ 配 信	4 外来で治療を受ける患者のアセスメントと支援 ～がん化学療法を受ける患者へのアプローチ～ 包括的アセスメント 外来でがん化学療法を受ける患者のセルフケア支援 (悪心嘔吐のある患者の事例を用いて)	13:20～15:50	講義	京都市立病院 がん化学療法看護 認定看護師 乾 和江
		課題とワークシートの説明	15:50～16:00	説明	西谷 葉子
	次回研修 案内			事務局	
2日目 令和2年12月5日（土）10:00～16:00					
各 論 編	ラ イ ブ 配 信	5 外来治療をうける高齢がん患者を理解する 高齢者が治療をうけることでの影響 がん患者の療養過程とところと身体と生活の変化	10:00～10:50	講義	京都第二赤十字病院 がん看護専門看護師 西谷 葉子
	ラ イ ブ 配 信	6 在宅で暮らすがん患者のアセスメント 制度の理解 資源の活用 訪問看護の実際 連携の必要性	10:55～13:50 (12:00～13:00 昼休憩予定)	講義	京都桂病院 在宅看護専門看護師 堂園 けい子
	ラ イ ブ 配 信	7 対象理解と意思決定支援	14:00～15:50	講義等	京都第一赤十字病院 がん看護専門看護師 田中 結美 京都大学医学部附属病院 がん看護専門看護師 大内 紗也子
		閉講	15:50～16:00	挨拶	公益社団法人京都府看護協会 常任理事 辻村 美春

看護師のクリニカルラダーの段階設定

定義	レベル	I	II	III	IV	V
	レベルの定義	基本的な看護基準に従い必要に応じ助言を得て看護を実践する	標準的な看護計画に基づき自立して看護を実践する	ケアの受け手に合う個別的な看護を実践する	幅広い視野で予測的判断をもち看護を実践する	より複雑な状況において、ケアの受け手にとっての最適手段を選択しQOLを高めるための看護を実践する
看護の核となる実践能力	ニーズをとらえる力	助言を得てケアの受け手や状況(場)のニーズをとらえる	ケアの受け手や状況(場)のニーズを自らとらえる	ケアの受け手や状況(場)の特性をふまえたニーズをとらえる	ケアの受け手や状況(場)を統合しニーズをとらえる	ケアの受け手や状況(場)の関連や意味をふまえニーズをとらえる
	ケアする力	助言を得ながら、安全な看護を実践する	ケアの受け手や状況(場)に応じた看護を実践する	ケアの受け手や状況(場)の特性をふまえた看護を実践する	様々な技術を選択・応用し看護を実践する	最新の知見を取り入れた創造的な看護を実践する
	協働する力	関係者と情報共有ができる	看護の展開に必要な関係者を特定し、情報交換ができる	ケアの受け手やその関係者、多職種と連携ができる	ケアの受け手を取り巻く多職種を調整し連携できる	ケアの受け手の複雑なニーズに対応できるように、多職種の力を引き出し連携に活かす
	意思決定を支える力	ケアの受け手や周囲の人々の意向を知る	ケアの受け手や周囲の人々の意向を看護に活かすことができる	ケアの受け手や周囲の人々に意思決定に必要な情報提供や場の設定ができる	ケアの受け手や周囲の人々の意思決定に伴うゆらぎを共有でき、意思決定を尊重できる	複雑な意思決定プロセスにおいて、多職種も含めた調整的役割を担うことができる

